

全国統一要求（抜粋） <ol style="list-style-type: none"> 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に 過積載復活させるな 	 建交労全国ダンプ部会	発行所 全日本建設交運一般労働組合 東京都新宿区百人町4-7-2 電話 03(3360)8021 每月25日発行 1部 50円
---	---	--

第24回全国キャラバン 各発注当局へ要請行動



東北ブロックで一体化した取り組みとなりました (7月10日福島県庁)



指導事項 (使用促進) を国と同じ文書内容に改めました (7月21日埼玉県庁)



1人親方就労者について建退共・社会保険未加入対策の元請指導を求めました (7月18日四国地方整備局)

7月～8月にかけて全国各地で第24回目の全国ダンプキャラバン行動に取り組みました。国は5年間連続で積算労務単価を引き上げ、ダンプ及び労働者の賃金・単価などの労働条件の改善措置、社会保険未加入対策では、現場排除措置を取っています。しかし、実際に引き上げられた

各地の取り組み

発注者は元請指導を強化し低単価・過積載を根絶しろ

7月～8月にかけて全国各地で第24回目の全国ダンプキャラバン行動に取り組みました。元請の姿勢と発注当局の指導不足です。一方、私たちの運動で単価調査や使用促進の指導等を改善する発注当局もあります。単価引き上げ・労働条件の改善の闘いを各地で推進しましょう。

7月～8月にかけて全国各地で第24回目の全国ダンプキャラバン行動に取り組みました。今年は、地整・各県の担当者にていい伝えています。今年は、交流集会記念で作成したパンフ・号外をフル活用（北海道・東北）と一体化していることを東北地整・各県の担当者にていい伝えています。今年は、シャツを参加者が身につけて取り組みました。8月2日に北海道、札幌ダンプ支部が「北海道、札幌市、開発局」への要請をおこない、森谷部会長が支援に入りました。

関東ダンプは、毎年キャラバンは各県支部の相互乗り入れをおこなっています。7月19日（茨城）、21日（埼玉）、26日（群馬）、27日（栃木）、8月21日（関東地整）、24日（東京）の日程で実施。埼玉

東海ダンプ支部（今年から愛知・静岡が統合）は、7月3日（愛知、中部地整、ネクスコ中日本）、25日（岐阜）、8月10日（静岡、浜松市、浜松川）で実施しました。静岡県や浜松市に対

各県の相互支援でキャラバンを実施

関東

東海ダンプ支部（今年から愛知・静岡が統合）は、7月3日（愛知、中部地整、ネクスコ中日本）、25日（岐阜）、8月10日（静岡、浜松市、浜松川）で実施しました。静岡県や浜松市に対

中部地整や岐阜県は北陸中部地整や岐阜県は北陸

中部地整や岐阜県は北陸中部地整や岐阜県は北陸

中部地整や岐阜県は北陸中部地整や岐阜県は北陸

中部地整や岐阜県は北陸

中部地整や岐阜県は北陸

国・ダン

中国・四国ブロック（広島・山口・徳島・高知）では、7月18日（四国地整、広島県、高島市、建設業協会、高島県警）、19日（中国地整、福山市）、21日（徳島・徳島県警・那珂川河川）の日程で実施しました。主に建退共や社会保険未加入対策におけるダンプなど、1人親方対策を元請に對して指導徹底するよう各県の担当者に求めました。

中国・四国ブロック（広島・山口・徳島・高知）では、7月18日（四国地整、広島県、高島市、建設業協会、高島県警）、19日（中国地整、福山市）、21日（徳島・徳島県警・那珂川河川）の日程で実施しました。主に建退共や社会保険未加入対策におけるダンプなど、1人親方対策を元請に對して指導徹底するよう各県の担当者に求めました。

単価改善・公契約条例 過積載対策の強化求める

九州・沖縄

沖縄・九州ブロックでは、7月20日（沖縄県、県警、建設協会、開発局）、21日（九州地整）、8月4日（宮崎）、7日（鹿児島）の日程実施。沖縄県では、公契約条例の制定の動きがあり、ダンプの単価問題や過積載の実態を例にして、現場で単価改善が実効確保されるように求めました。

九州地整では、「建設工事從事者安全確保推進法」の基本計画にもとづく、「1人親方労災保険加入促進」を言及し、厚労省との連携強化及び元請各社が実施している新規入場アンケートを紹介しました。



5千人突破記念の「全国交流集会」で挨拶する山下登司夫弁護士（1989年7月）

ダンプの権利を守る闘いに 多大な貢献した山下弁護士

今年6月21日に建交労の顧問弁護士である山下登司夫さん（75歳）が逝去されました。山下弁護士は旧建設一般時代から今日まで42年間、顧問弁護士としてご奮闘をいただきました。全国ダンプ部会とのかかわりでは関東ダンプ協議会の草創期から、「車持ちダンプ運転手の労働者

山下弁護士の訃報の連絡を受けた時、あんなに元気な山下さんが亡くなられたなど信じられません。いつも元気でダンプの権利守る闘いの先頭に立たれ、正義感に満ち、その確固たる姿勢と戦闘性は私たちダンプ労働者を大きく励ました勇気づけてくれました。

建設一般（当時）の旗のもとダンプが労働組合を結成して今年で45年になります。山下弁護士は建設一般時代におけるダンプの組合創生時により大きなかかわりを持ちました。ダンプの闘いは組合結成



1982年思川砂利争議を報道した当時の新聞、一番左側が山下弁護士（出典新いばらきタイムス社）

1・ダンプは車持ちの労働者、労働者として団結権、団体交渉権を保障せよ

ダンプの大半は、「碎石、砂、合材、建設」などの会社に指揮命令の下でダンプカーを自分で持つて就労している労働者にもかかわらず、自営業者や労働条件について、対等に交

は「ダンプは労働組合法上の労働者。労働者として権利は保障されるべきである、会社は労働条件改善の交渉に応じるべきである」とダンプに法律的な根拠と確信を与え、闘いの方向を示しました。

これらの闘いは労働委員会命令や労基署から指導票を出させるなどの闘争勝利を導き、や要求闘争の前進・発展に大きな力と影響を与えました。

3・過積載の取り締まりで「荷主・荷受人の責任」を明確化させた闘い

約20数年前は「栃木、群馬、千葉、茨城」の各県から碎石、砂などの資材を東京、千葉など生コンおよび合材プラントへ納品する仕事は、運搬距離が長く地理的構造上の問題があり、10トン車に40トン程度を積む過積載の状態が恒常

当時と比べ今日では目を見張るほど大きく前進してきます。しかし、この前進を築く上で山下弁護士やその仲間の弁護士の果たされた役割は大変大きなものがありました。

改めて山下弁護士がダンプにつくされた功績の大きさを感じています。

ダンプの運転手だけではなく、労働条件改善の闘いに立ち上がりました。この闘いに山下弁護士は「ダンプは労働組合法上の労働者。労働者として権利は保障されるべきである」とダンプに法

令や労基署から指導票を出させていた会社の社長が夜逃げしたため18人で一、四四六万円の労賃の未払い事件がありました。被害にあったダンプは

造成現場で現場にズリを運搬していたダンプが直接使用して止まる事無くダンプのためにはダンプは泣き寝入りしてあきらめるしかありませんでした。

44年前、越谷の住宅公団の労賃の未払い事件がありました。被害にあったダンプは

過積載はダンプ運転手だけを根本の解決をすべき」と警察の取り締まりだけでは過積載をなくせる期待や可能性はない」とダンプの重量違反での裁判闘争にも取り組みました。

これらは警察、検察庁内部で大きな反響を呼び、警察の過積載の取り締まりが慎重に取り締まりだけでは過積載をなくせる期待や可能性はない」とダンプの重量違反での裁判闘争にも取り組みました。

団結と要求闘争を強化し働く環境を改善しよう

7月9日（日）、戸田文化会館（埼玉県戸田市）で第17回埼玉南部支部定期大会を開催し、80名が参加しました。

書記長高橋英晴、副委員長稻川達也、委員長他2名

性、「過積載対策」等にご尽力をいただきました。今日の全国ダンプ部会の運動や組織化の到達を築く上で多大な貢献をされました。故人のご冥福を心よりお祈りし、山下弁護士と苦楽を共にした

2・ダンプ労賃不払いでの元請建設会社の責任の明確化

建設現場でのダンプは実態的には元請建設会社の支配下にあるにもかかわらず、形式

的にはダンプを直接使用している下請会社の責任に置かれています。当初ダンプを直接改めて山下弁護士がダンプにつくされた功績の大きさを感じています。

これは産業の経済上、構造的に原因があり、ダンプが過積載をしないで頑張ることではありません。

しかしダンプが過積載で検挙されると運転手だけが罰せられ、免許の停止や取り消されダンプだけが泣くという、警察は「取り締まりだけの取り締まり」の状態でした。

多彩な要求に応える活動が団結強化・組織拡大に直結

7月9日（日）神奈川ダンブ支部は第24回定期大会を開催しました。経過報告では、

新年度運動方針では、(1)社保未加入対策における適切な保険の加入促進、(2)人親方労災保険加入及び新規事業所の労働保険加入促進。(3)公共工事でこれまでの実績を活かした使用促進を勝ち取ることを方針としました。